



デンマーク王国 DATA

人口約570万人(≒兵庫県)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

本会事務局職員が、2007年1月より在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度で高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。



山口 晃平

在デンマーク日本大使館二等書記官
(経済同友会事務局より出向中)

コペンハーゲンが「住みやすい都市」世界一に！

米国の建築・デザイン雑誌『メトロポリス』が発表する「住みやすい都市ランキング2016」において、コペンハーゲンが堂々の1位に輝きました。同誌は都市の良さを考える上で「住宅事情(Housing)」「交通事情(Transportation)」「文化水準(Culture)」「都市の持続可能性(Sustainability)」を重視し、この4基準からランキングを行っているとのこと。トップテンは毎年発表されており、2016年は東京も6位に入っています。

1位となったコペンハーゲンの評価ポイントとして、記事の中では以下の3点が挙げられています。

- ①自転車政策と自転車道等インフラの充実
- ②沿岸部を中心とした公共スペースの充実と優れたデザイン、アクセスの良さ
- ③環境に配慮した街づくり

私のコペンハーゲン歴も、着任してから1年半強となりますが、やはり自分の住む街が1位に輝くのは素直にうれしいものです。記事を読んでからあらためて街を見渡してみると、充実したインフラと建築物の洗練されたデザイン、新旧の建物の調和、斬新でアイデアに富んだノルディック・キュージーヌ(高いけど……)と、非常に「快適で居心地の良い街」だと思います。

また、私も多くのデンマーク人と同様に、毎朝の通勤に自転車と電車を利用していますが、自宅・大使館ともに最寄り駅から少々離れているため、充実した自転車道や、自転車の駐輪スペースを備えた近郊列車S-Torgの存在は、非常に便利で助かっています。正直なところ、最初は他の欧州都市と比較して「ちょっと地味だなあ」と思っていま

したが、今では家族ともどもコペンハーゲンの街がとても気に入っています。

ところで、ちょうど本稿を書いている途中、私の出身地であり応援している福岡ソフトバンクホークスがパ・リーグV3を逃したとのニュースを目にしました(北海道日本ハムファイターズのファンの方はおめでとうございます)。かくなる上は、現在のわが街・コペンハーゲンだけでも2017年のランキングで1位をキープしてもらいたいところですが、重要な評価項目の一つである「住宅事情」について、少々気になるデータがあります。

昨年8・9月号の本コラムでも触れましたが、コペンハーゲンの住宅価格が引き続き高騰しています。2016年9月に発表されたデンマーク中央銀行の経済サマリーによれば、都市部、特にコペンハーゲンの住宅価格の上昇が進んでいるようです。上昇のピークであった昨年からは若干ペースが落ち着いているとはいえ、今年もコペンハーゲン市内のアパートは10%弱、戸建て住宅も7.5%の価格上昇が見込まれています。また、最近コペンハーゲンに越してきた方や、住宅の購入を検討している友人からも、最近の住宅価格や賃料の高騰ぶり、また、そもそもの物件数の少なさについての話を耳にしました。こうした住宅事情の悪化傾向が、コペンハーゲンの連覇に水を差さなければよいのですが……。

「住みやすい都市ランキング」も、2015年の覇者であるトロントが、2016年は一気に9位に転落するなど、日本のプロ野球ペナントレースと同様に厳しい競争となっています。クライマックスシリーズ、また、本誌が発行されるころには結果が出ているであろう日本シリーズも気になるところですが、コペンハーゲンの来年の成績にも注目していきたいと思います。